

## ◎ 術前に休薬が必要な薬剤について

手術を受ける際に注意が必要となる代表的薬剤には、「抗血栓薬」があります。抗血栓薬（抗血小板薬および抗凝固薬）を服用中の患者が出血を伴う処置や手術を受ける際には、出血の増加を防ぐために事前に休薬するなどの対応が必要です。しかしながら急に抗凝固療法を中止すると、リバウンド現象として一過性に血栓形成が亢進し、血栓塞栓症を誘発する可能性が示唆されています。手術それ自体が生体で血栓形成傾向にする要因でもあるため、周術期における抗血栓薬の管理は臨床問題となることがあります。

また、抗血栓薬以外にも手術を受ける際に注意が必要となる薬剤はいくつかあり、手術を受ける際には持参薬等の確認が重要となります。

当院では、平成30年4月より「患者さんの入退院に関する基本情報の一元化と多職種との連携により、安心・安全の医療の提供と円滑な在宅療法を推進する」ことを目的に「患者サポートセンター」が組織化されました。「患者サポートセンター」の常駐薬剤師は、患者さんとの入院前面談にて持参薬等の情報を収集し、必要時術前休薬に関する情報を医師や看護師等へ提供しています。

そこで今回、患者サポートセンターにて薬剤師が情報提供を行っている術前休薬期間の目安を以下に紹介します。

### 1. 術前休薬期間の目安

#### 抗血栓薬など

薬効	一般名	代表薬剤名	当院における休薬期間
抗血小板薬	アスピリン	バイアスピリン錠	7～14日 <sup>1),2),4),10)</sup>
	アスピリン・ダイアルミネート配合剤	バファリン配合錠 A81	
	アスピリン・ランソプラゾール配合剤	タケルダ配合錠	
	アスピリン・クロピドグレル配合剤	コンプラビン配合錠	
	チクロピジン塩酸塩	パナルジン錠	
	クロピドグレル硫酸塩	プラビックス錠	
	プラスグレル塩酸塩	エフィエント錠	14日以上 <sup>8),10)</sup>
	チカグレロル	ブリリント錠	5日 <sup>6),8)</sup>
	シロスタゾール	プレタール OD 錠	3日 <sup>1),2),4)</sup>
	イコサペント酸エチル	エパデール S	7～10日 <sup>3),4),6),7)</sup>
	ベラプロストナトリウム	ドルナー錠	1～2日 <sup>5),9)</sup>
	サルポグレラート塩酸塩	アンプラーグ錠	

薬効	一般名	代表薬剤名	当院における 休薬期間
抗凝固薬	ワルファリンカリウム	ワーファリン錠	3～5日 <sup>1),2),3),4)</sup>
	ダビガトランエテキシラート メタンスルホン酸塩	プラザキサカプセル	24時間～4日 <sup>8)</sup> (腎機能・出血 リスクにより 変動あり※)
	リバーロキサバン	イグザレルト錠	24時間以上 <sup>8)</sup>
	アピキサバン	エリキューズ錠	24時間 (大手術の場合は 48時間以上) <sup>8)</sup>
	エドキサバントシル酸塩	リクシアナ OD 錠	24時間以上 <sup>8)</sup>
血管拡張薬	リマプロストアルファデクス	オパルモン錠	1日 <sup>4),6),7)</sup>
冠血管拡張薬	トラピジル	ロコルナール錠	2日 <sup>4),9)</sup>
	ジラゼプ塩酸塩	コメリアンコーワ錠	
	ジピリダモール	ペルサンチン錠	1～2日 <sup>6),7)</sup>
脳循環・代謝 改善薬	イブジラスト	ケタスカプセル	3日 <sup>4),6),7),9)</sup>
	イフェンプロジル酒石酸塩	セロクラール錠	1～2日 <sup>4),6),7),9)</sup>
	ニセルゴリン	サアミオン錠	2日 <sup>4),6),7),9)</sup>
高脂血症 治療薬	$\omega$ -3 脂肪酸エチル	ロトリガ粒状カプセル	7～10日 <sup>6),9)</sup>
骨粗鬆症 治療薬	ラロキシフェン塩酸塩	エビスタ錠	3日 <sup>4),8)</sup>
	バゼドキシフェン酢酸塩	ビビアント錠	

※ GCr>50mL/min: (出血リスク standard)24 時間、(出血リスク High)2～4 日

30mL/min<GCr<50mL/min: (出血リスク standard)少なくとも 2 日(48 時間)、(出血リスク High)4 日

## 降圧剤

薬効	一般名	代表薬剤名	当院における 休薬期間
ACE 阻害薬	カプトプリル	カプトリル錠	手術前 24時間は 投与しないことが 望ましい <sup>8)</sup>
	エナラプリルマレイン酸塩	レニベース錠	
	アラセプリル	セタプリル錠	
	デラプリル塩酸塩	アデカット錠	
	シラザプリル水和物	インヒベース錠	
	リシノプリル水和物	ロンゲス錠	
	ベナゼプリル塩酸塩	チバセン錠	
	イミダプリル塩酸塩	タナトリル錠	
	テモカプリル塩酸塩	エースコール錠	

薬効	一般名	代表薬剤名	当院における 休薬期間
ACE 阻害薬	キナプリル塩酸塩	コナン錠	手術前 24時間は 投与しないことが 望ましい <sup>8)</sup>
	トランドラプリル	オドリック錠 プレラン錠	
	ペリンドプリルエルブミン	コバシル錠	
ARB (A II 受容体 拮抗薬)および 配合剤	ロサルタンカリウム	ニューロタン錠 プレミネント配合錠	手術前 24時間は 投与しないことが 望ましい <sup>8)</sup>
	カンデサルタンシレキセチル	エカード配合錠 ブロプレス錠 ユニシア配合錠	
	バルサルタン	アテディオ配合錠 エックスフォージ配合錠 コディオ配合錠 ディオバン錠	
	テルミサルタン	ミカルディス錠 ミカムロ配合錠 ミカトリオ配合錠 ミコンビ配合錠	
	オルメサルタンメドキシミル	オルメテック錠 レザルタス配合錠	
	イルベサルタン	アイミクス配合錠 アバプロ錠 イルトラ配合錠 イルベタン錠	
	アジルサルタン	アジルバ錠 ザクラス配合錠	

### 糖尿病薬

薬効	一般名	代表薬剤名	当院における 休薬期間
ビグアナイド 類および配合 剤	メトホルミン塩酸塩	イニシンク配合錠 エクメット配合錠 グリコラン錠 メタクト配合錠 メトアナ配合錠 メトグルコ錠	手術前48時間は 投与しないことが 望ましい (ヨード造影剤使用 の場合は48時間 前に中止する) <sup>6),8)</sup>
	ブホルミン塩酸塩	ジベトス錠 ジベトン S 腸溶錠	

## 女性ホルモン関連薬

薬効	一般名	代表薬剤名	当院における 休薬期間
女性 ホルモン薬	エチニルエストラジオール・ ドロスピレノン	ヤーズ配合錠 ヤーズフレックス配合錠	4週間 (【禁忌】欄に 記載あり) <sup>4),8)</sup>
	エチニルエストラジオール・ レボノルゲストレル	アンジュ 21 28 トリキュラー錠 21 28	
	エチニルエストラジオール・ ノルエチステロン	シンフェーズ T28 錠 ルナベル配合錠 LD ルナベル配合錠 ULD	
	レボノルゲストレル・ エチニルエストラジオール	ラベルフィーユ 21 28	
	デソゲストレル・ エチニルエストラジオール	ファボワール錠 21 28 マーベロン 21 28	
	結合型エストロゲン	プレマリン錠	4週間 (【慎重投与】欄に 記載あり) <sup>8)</sup>
	エストリオール	エストリール錠 ホーリン錠	慎重投与 <sup>8)</sup>
	エストラジオール・ レボノルゲストレル	ウェールナラ配合錠	
	エストラジオール	エストラーナテープ ジュリナ錠 ディビゲル ル・エストロジェル	
	エストラジオール・ 酢酸ノルエチステロン	メノエイドコンビパッチ	

**プラノバル錠**：添付文書の「重要な基本的注意」に以下の記載あり。「本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること」

参考文献：

- 1) 心房細動治療ガイドライン (2013年改訂版)
- 2) 循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン (2009年改訂版)
- 3) 手術医療の実践ガイドライン (2013年)
- 4) 周術期管理チームテキスト 第3版 (2016年8月発行)
- 5) 麻酔科医のための周術期の薬物使用法 初版 (2015年5月15日発行)
- 6) 薬局 2017 Vol. 68 No. 12
- 7) 月刊薬事 Vol. 57 No. 1
- 8) 添付文書、インタビューフォーム、適正使用ガイド
- 9) メーカー情報
- 10) 抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン (2016年)

より抜粋・加筆